

令和2年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

「つながり」「いきいき」「豊かな学び」を標語として、生徒一人ひとりが仲間や社会とつながり、元気に体を育み、主体的な選択をとおして未来を描く教育の実現をめざす。そのために、以下の点を重点目標として学校経営に取り組む。

- 1. つながり：仲間や地域社会とのつながりの中で、「コミュニケーション力」や「自ら考えて行動する力」を伸ばし、積極的に社会に参画する意欲を育む。
- 2. いきいき：生徒が、お互いを大切にすると人権感覚を育みながら、安全で安心して学べる学校（防犯・防災、安全衛生管理）整備を進める。
- 3. 豊かな学び：生徒一人ひとりに応じた支援の充実を図り、豊かな学びや「変化に対応できる力」を伸ばす教員の専門性と指導力の向上に取り組む。
- 4. 保護者・地域・関係諸機関と連携し、開かれた学校づくりとセンター的機能を発揮する。
- 5. 学校課題を明確にし、教職員が一体となって改善に取り組む、効果的で機能的な組織づくりを推進する。

2 中期的目標

- 1. 仲間や地域社会とつながりの中で、「コミュニケーション力」や「自ら考えて行動する力」を伸ばし、積極的に社会に参画する意欲を育む。
 - (1) キャリアマトリクスを活用し、中学部・高等部で一貫したキャリア発達を促す学習や、進路に関する教育の充実を図る。
 - ア 高等部卒業後の進路に向けて生徒の希望を実現させるために、体験実習と巡回指導の充実を図る。
 - イ 中学部、高等部の生徒への社会参加へ向けてのキャリア教育を継続する。
 - ウ 高等部では、卒業生の講演やビデオを活用しての進路学習を実施する。さらに、政治的教養を育む教育を継続して実施する。
 - (2) 学校行事の中で役割を分担し、生徒会活動などで生徒間の協力体験を引き出し、生徒が主体となって取り組む活動を充実させる。
 - (3) 交流活動や共同学習、体験学習、放課後活動や余暇活動を推進し、社会参加のための教育の充実を図る。
- 2. 生徒が、お互いを大切にすると人権感覚を育みながら、安全で安心して学べる学校（防犯・防災、安全衛生管理）の体制整備を進める。
 - (1) 生徒一人ひとりがさまざまな活動の中で自分の健康や身体に関心を持ち、健康を保持増進できるように支援する。
 - (2) 生徒一人ひとりの人権を大切に、人権研修等を通じて教職員の人権意識を高めるとともに、校内の人権意識の高揚を図る。
 - (3) 個人情報適切に運用する。
 - (4) 大規模災害時における対応マニュアルの見直しを継続して行い、PTA と協働して防災体制の確立をめざす。
- 3. 生徒一人ひとりに応じた支援の充実を図り、豊かな学びや「変化に対応できる力」を伸ばす教員の専門性と指導力の向上に取り組む。
 - (1) 学習指導要領に示されている三つの力「コミュニケーション力」「自ら考えて行動する力」「変化に対応できる力」について理解を深め、三つの力についての課題と目標を設定した取組みを進める。
 - (2) 「主体的、対話的で深い学び」の視点を取り入れた授業に取り組む、知的障がい教育における専門性の向上を図る。
 - ア 全教員が「主体的、対話的で深い学び」の視点を取り入れた授業に取り組む、授業力や指導力の向上をめざす。
 - イ 初任者へのサポート体制の充実と、経験年数の少ない教員の授業力向上を継続して行う。
 - ウ 校内研修や授業実践の公開、外部人材の活用などを通して、教員の専門性の向上を図る。
 - (2) 個々の障がい特性に応じた支援の充実を図るため、ICT 教育環境を充実させ、活用する。
 - (3) 生徒の想像力を豊かにし、表現力を高める図書環境の整備を継続する。
- 4. 保護者・地域・関係諸機関と連携し、開かれた学校づくりとセンター的機能を発揮する。
 - (1) コーディネーターを中心とする、チームによる校内支援及び地域支援（センター的機能）を充実させる。
 - (2) ホームページ等によるタイムリーで有効な学校情報の発信を行う。
- 5. 効果的で機能的な学校組織づくり
 - (1) 学校組織の見える化を図り、教職員が一体となった効果的で機能的な組織づくりを推進する。
 - (2) 通学区域割変更の年次進行の中で、引き続き教職員が一丸となって課題を共有・改善することに取り組む。

【学校教育自己診断の結果と分析・学校運営協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析 [令和 年 月実施分]	学校運営協議会からの意見

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価
1 「コミュニケーション力」や「自ら考えて行動する力」を伸ばす	<p>(1) 進路に関する教育の充実 ア 生徒の希望する進路実現のための実習の充実とアフターケアの充実。 イ キャリア教育の継続。 ウ 卒業生の講演による進路学習。</p> <p>(2) 学校行事や生徒会活動で、生徒が主体となって取り組む活動の充実。</p> <p>(3) 交流活動や共同学習、体験学習、放課後活動や余暇活動を推進し、社会参加のための教育の充実を図る。</p>	<p>(1) ア 希望する進路実現のための体験実習や企業実習を充実する。進路先等への定着支援のアフターケアを充実させる。 イ 中学部・高等部のキャリア学習を、キャリア発達の視点で見直し、一貫した見通しの持てる指導に進めていく ウ 身近な卒業生の体験を聞くことで、卒業後のイメージを持ちやすくし、進路に対して主体的に取り組む姿勢を培う。</p> <p>(2) ア 学校行事で役割分担をし、生徒の主体的活動を支援する。 イ 生徒会活動や委員会活動など、生徒が主体となって取り組む活動を活性化させる。 (3) ア 学校間交流や居住地校交流を継続する。 イ 放課後活動を継続するとともに、校外でのスポーツや文化的活動への参加を支援する。</p>	<p>(1) ア 卒業時点で生徒が希望する進路実現 100% 卒業生のアフターケアを9月までに実施し、充実させる。 イ 中学部・高等部のキャリア学習の見通しの持てる一覧表の作成。全教員で共有し活用する。 (教 80% H29 88% H30 83% R1 74%) ウ 卒業生による進路講座の継続 終了後の生徒アンケートの充実度 75%以上(R1 75%) (2) ア 行事を通じて、生徒の自己肯定感を向上させたか。 (生 85%以上 H29 74% H30 82% R1 89%) イ 活動実績 (3) ア 居住地校交流では交流の意義を広げる。相手校管理職に交流の意義を伝える。 学校間交流では、音楽以外の交流も試みる。(実績) イ 活動実績(前年度以上)(R1 46名)</p>	
2 安全・安心のための校内体制の構築	<p>(1) 生徒一人ひとりが自分の健康や身体に関心を持ち、健康を保持増進できるように支援する。</p> <p>(2) 校内の人権意識の向上。</p> <p>(3) 個人情報適切な運用。</p> <p>(4) 危機管理意識の向上 防災体制の確立。</p>	<p>(1) 安全・安心のための校内体制の構築 ア 食物アレルギー対応にかかる研修を行う。 イ ヒヤリハット活用による事故防止に努め、施設設備の点検・管理による安全性を向上させる。 ウ 心と身体の学習(性に関する指導)の充実を図る。</p> <p>(2) 人権研修の実施及び人権感覚に関する日ごろからの理解啓発に努める。</p> <p>(3) 情報セキュリティポリシーの遵守し、個人情報の適切な取り扱いに努め、見直しを継続する。</p> <p>(4) 防犯や防災に対する見直しを引き続き行い、教職員の訓練等を通じて危機管理意識を向上させる。</p>	<p>(1) ア 生徒の健康に関わる研修を1回以上行う(実績) イ 設備の点検・管理による安全性の向上 (教 65% H29 61% H30 60% R1 54%) ウ 心と身体の学習を全ての学年で6時間以上行う。 系統立てた学習表の作成。(実績)</p> <p>(2) 悉皆の校内人権研修を2回実施する。 学期に1回のチェックシートによる自己点検を行う。</p> <p>(3) 引き続き適切な運用に努め、保護者の信頼を継続する。 (教 91%以上 H29 80% H30 R1 91%)</p> <p>(4) ア マニュアルの見直しを12月までに行う。 イ 防犯や防災に関する訓練を、年2回行う。</p>	
3 教員の専門性の向上と指導力の向上	<p>(1) 三つの力への理解を深める</p> <p>(2) 指導力及び専門性の向上 ア 全教員が授業改善や指導力の向上をめざす。 イ 初任者へのサポート体制の充実と、経験の少ない教員の授業力向上を継続して行う。 (3) ICT 教育環境を充実させ、活用する。 (4) 図書環境を整備する。</p>	<p>(1) 1学期に研修会を設け、学習指導要領が示す「資質・能力」と「三つの力」について理解を深める。</p> <p>(2) 学びを支援する教員の授業力と専門性の向上 ア 全教員が「主体的、対話的で深い学び」の視点を取り入れた授業に取り組む。 イ 初任者へのチームでのサポート体制の充実。(教科指導、学年での指導、首席による指導、管理職による指導など)</p> <p>(3) ICT 教育環境の整備・充実と活用 ア ICT または視覚支援を活用した授業の取組みを継続する。 イ ICT 教育に関する環境整備を行う。 教室へのプロジェクターの設置、 (4) 生徒の想像力を豊かにし、表現力を高める図書環境を整備する。</p>	<p>(1) 1学期に全体研修を2回実施する。</p> <p>(2) ア 授業実践に取り組んだか。 公開研究授業を学部で2回以上行う。 イ 初任者や経験年数の少ない教員への教育支援ができたか。 (教 65% H29 69% H30 68% R1 59%) (3) ア ICT または視覚支援を活用した授業を実施し、活用は有効であるか。(教 80%以上 H30 75% R1 82%) イ ICT 環境の整備。教室へのプロジェクターの設置やモニターの増台を進め、使いやすさを改善する。(実績) (4) ア 図書コーナーの新書を増やす。 イ 移動式図書ラックを活用した読書啓発活動を行う。</p>	
4 センター的機能の発揮	<p>(1) 校内支援体制と地域支援(センター的機能)を充実させる。</p> <p>(2) 学校情報の発信の充実。</p> <p>(3) 地域との連携</p>	<p>(1) ア コーディネーターを中心とした校内体制の維持と、巡回相談や講師派遣によるセンター的機能の充実。 イ 地域に向けて授業公開や校内研修の公開を行う。</p> <p>(2) ホームページ等でタイムリーな学校情報を、地域や保護者に発信する。</p> <p>(3) 地域との交流を深め、地域での生徒の販売体験などの地域との交流の場を増やす。</p>	<p>(1) ア 依頼にすべて応じ、情報提供やケース会議を実施したか (教 73% H29 64% H30 78% R1 71%) イ 授業公開2回、公開研修2回を行う。 (2) HP のシステムの更新を行い、タイムリーで有用な情報発信を行う。 (保 65% H29 31% H30 63% R1 61%) (3) 販売体験を継続し、地域での活動を広げる。(前年度以上の実績)(R1 2回)</p>	
5 学校組織づくり	<p>(1) 効果的で機能的な学校運営組織</p> <p>(2) 通学区域割り変更への対応</p> <p>(3) 教員の働き方改革</p>	<p>(1) 主任会や学校経営会議をより活発に運営し、学校課題を明確にして、迅速に取り組む。</p> <p>(2) 通学区域割り変更の年次進行で、予想される課題を共有し、改善に取り組む。</p> <p>(3) 学校課題の整理や、会議・行事等の精選を通して教職員の業務効率化を図る。</p>	<p>(1) 教育活動や学校経営に関する考えの明確化 (教 75%以上 R1 75%) (2) 検討会議を学期に1回以上行う。 (3) 労働安全衛生委員会を中心に、働き方改革につながるアンケートを新たに教職員に実施し、改善する。(実績による)</p>	